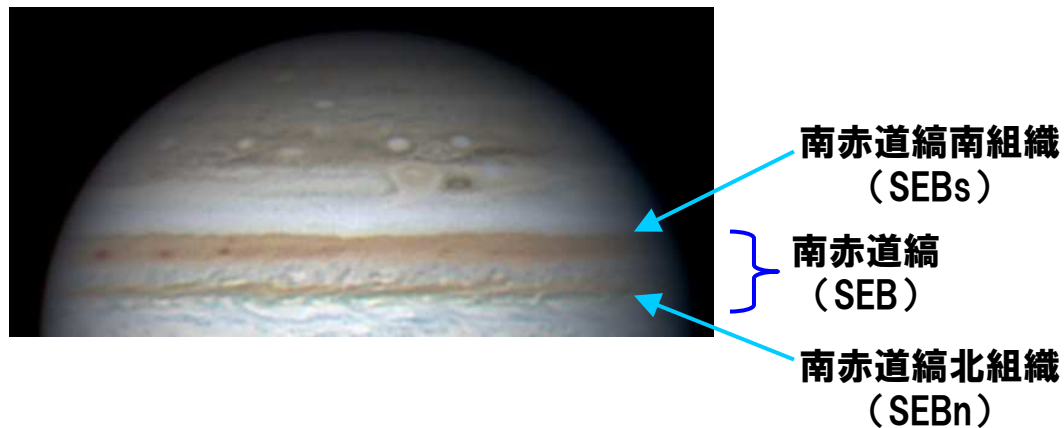
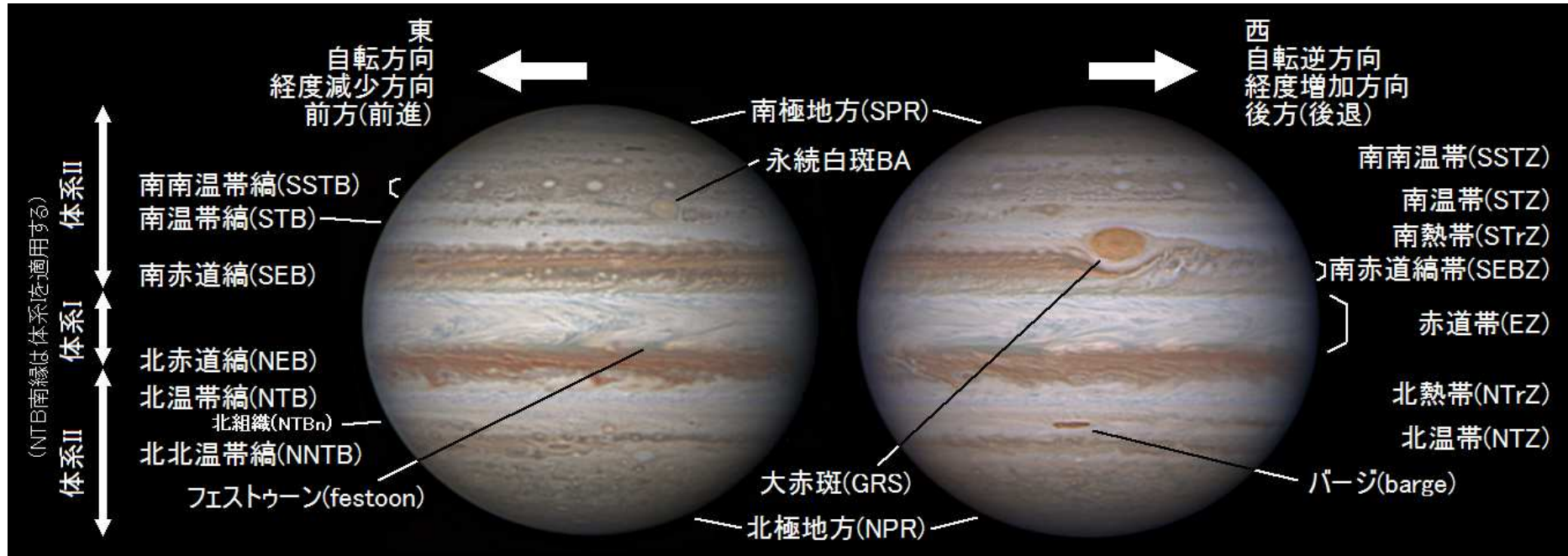
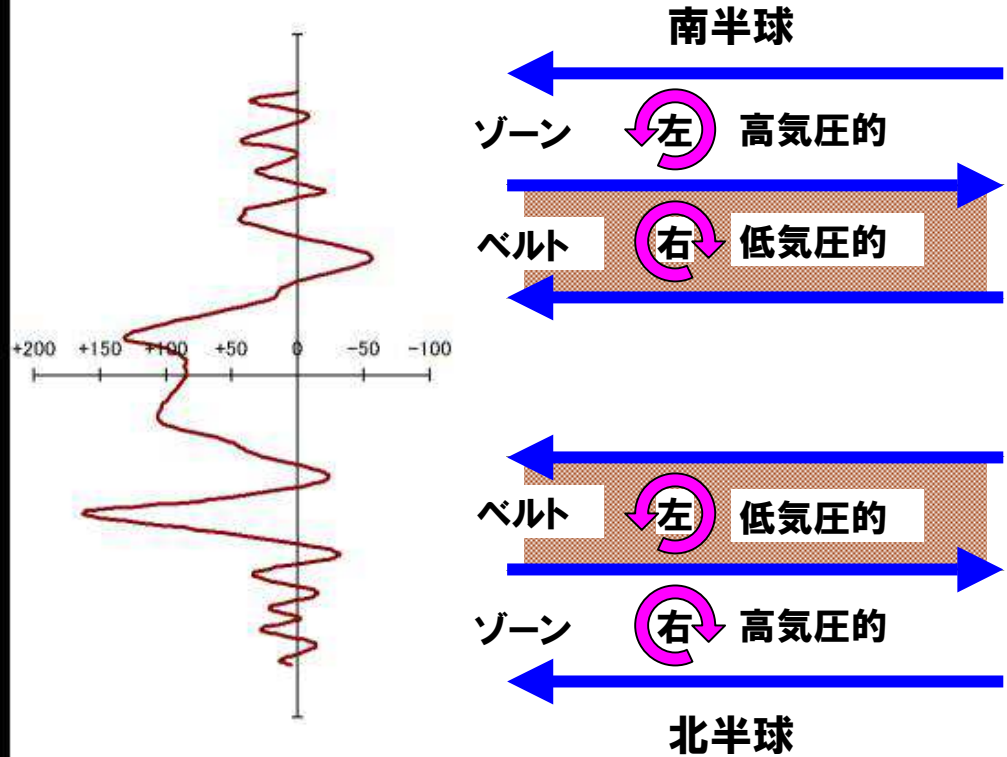
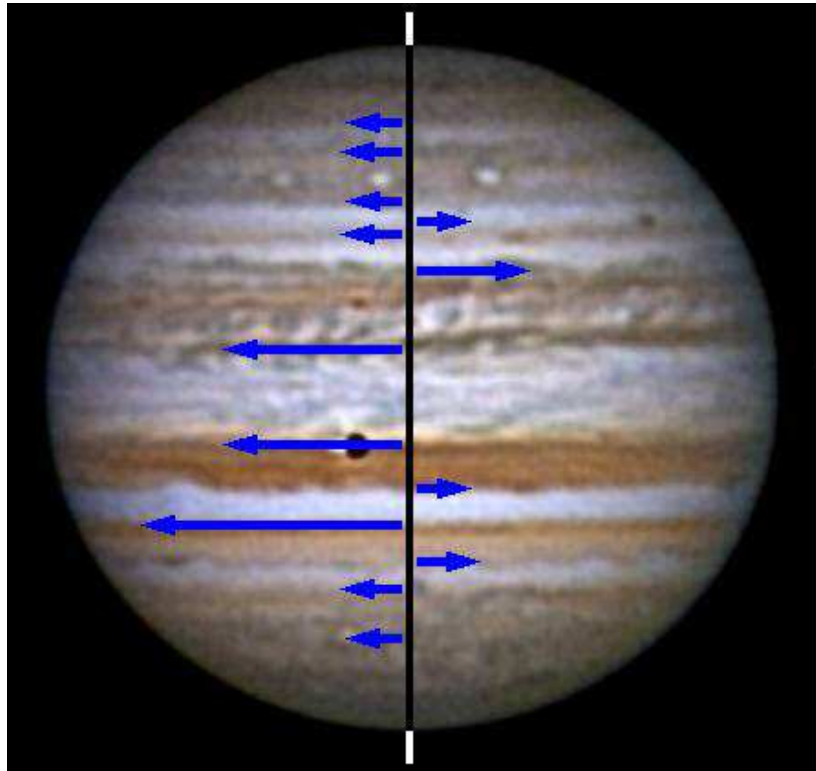


木星面に見られるベルト／ゾーン



- 縞(Belt)が二条になっている場合は、分離した縞を組織(Component)と呼び、小文字のsまたはnを添える。
- 縞模様の太さや濃度は大きく変化する。上図では、北温帯縞(NTB)が淡化、特に南組織(NTBs)は消失して見えない。また、南温帯縞(STB)も部分的に淡化している。
- 時おり現れる細い縞については、紐(Band)と呼ばれることがある(例:赤道紐 EB)。

木星面を流れるジェットストリーム



- 東向きと西向きのジェットストリームが交互に並び、ベルトの赤道側(ゾーンの極側)は自転方向、ベルトの極側(ゾーンの赤道側)は、自転と反対方向の流れになっている。
- 上記により、ゾーンは高気圧的な循環(南半球では左回り、北半球では右回り)の場合、ベルトは低気圧的な循環(その逆)の場合となっている。

メタンバンドによる画像



- 木星大気に含まれるメタンは、近赤外のいくつかの波長を吸収する（メタンバンド）。特に、890nmの吸収は強い。
- 吸収の度合いは、太陽光が木星大気中を通過する経路の長さに依存。
- 890nmの波長での画像は、木星の雲のアルベドではなく、雲の高さを反映している。

